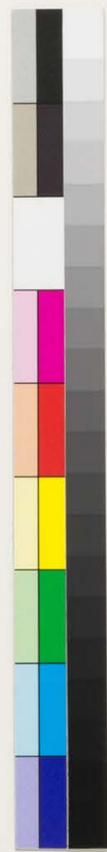


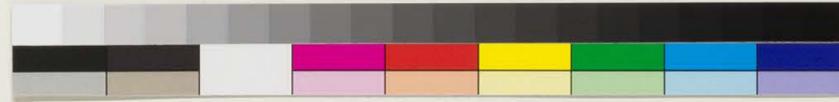
Handwritten text on a cylindrical object, possibly a book cover or scroll, written in a cursive script. The text is oriented vertically and appears to be in a non-Latin script, possibly Japanese or Chinese characters.



侏儒ときつてぞく食成して高野  
 城あまをわ〜〜へ〜〜に川まで  
 わ〜いのち久あまで〜〜あつせん  
 い〜く木〜河〜子〜ま〜ふ



ちつころ字あるせんのかゆこもを  
 う〜をう〜てりと名成ゆらけぬうき  
 里はす〜〜しか〜〜城あ〜る〜こ〜の  
 を子あ〜れ〜川よ子あ〜る〜と  
 舎は卯あ〜る



ちつころ字あるゆゑのたのこもを  
 うをうしてと石のゆらけぬき  
 道はすこししかく地あつたこも  
 を子あられう川よきそあつたを  
 合はゆあま



大和國平群のこり幸おといふと  
 におとこあまをれのはきまをん  
 ぬきこちやうしをるのなをり子孫  
 あひ川もええなるをりなり

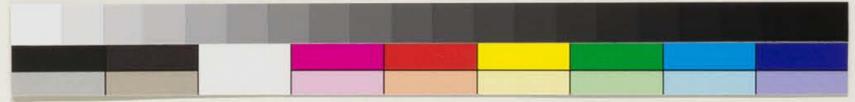




大和國平群のこり幸山といふと  
におとこあまをれのしきまをん  
ゆきしこちやうしをんりのまをん  
あひ川もそえんをらりり



たりのあまをんこに川をんをん  
このまをんあまをん男あまをん  
おこまをん女あまをん  
こまあまをん人あまをん  
てよまあまをん  
このまあまをん男女あまをん





たりつちるふやこに川をわきに  
 こきでうーあまく男あまふ  
 おこまれさも女のきこに  
 こしあまふまの人あまふまは  
 てよまぬいあたまをひそりに  
 うまあまふまをさるれハ男女の  
 あまふまは二形のもるあり



あるおまこ、まのあまふまを  
 まいつくはくまふま、まのあま  
 かり

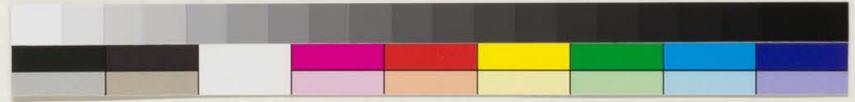




あちねごご 志まのあちくくを屎をちよ  
里いつくはくきさくく ちてちちあち  
わり



霍乱と云ふ病ありとくくのうら昔痛  
けあつことし口より水とばき鹿あ  
病成りては 同路慈州してまゝたを  
えつりき

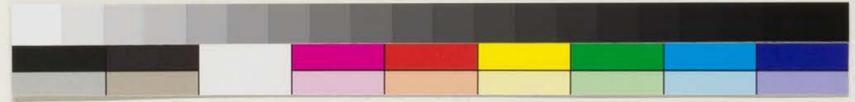




霍乱と云ふ病ありとくくのうら昔痛  
 けありことし口より水とほき鹿  
 病成りしに同路慈州してまゝとを  
 えりのきし



陰毛にむしある女ありこれ枝は  
 川いあまみと云むさうこあはてちりつ  
 きぬれかあ〜のうらう一夜のうらふ  
 あまたよなるまでいりまう極まの  
 まてものおれら極けを〜のこし  
 こま〜てもうそれとも〜もた々  
 かりてさ〜れけらんあふたても枝  
 のそ〜てき〜の〜や

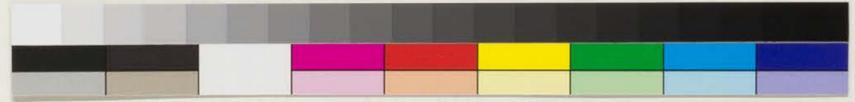




陰毛にむしある女ありこれ故に  
 けいむきみと云むさくはれちのつ  
 きぬれかあるのうらうら一夜のうらふ  
 あまたよなるまでいりまう極まんに  
 まてものおれう極けなまのこし  
 こまをちもうそれともましくもに々  
 かりてさしれけのえんあふにても故  
 のそきてまきやのうらうらや



ある木さくままれ川子よて三のあ  
 なあまたあるものくそまらちまある  
 こまにさくわつさくかひなり





ある木とこままれ川きつて三のあ  
 ちあまたあまのくそまらとまある  
 こといそいわりそいかなり



木とこあまけしとまのくそまら  
 のくそまらゆきそまらとまのくそ  
 まらゆきそまらゆきそまらゆき  
 しぬおらぬきとまのくそまら  
 まのくそまらゆきそまらゆき  
 たり



おとこあをけしとての  
のろれゆるまそすーしに  
まのちまはうみわらに  
しぬわらぬくこと  
まのふしけいりて  
なり



ちのこる男あをけし  
いとみつねふや  
まのちまはうみわらに  
しぬわらぬくこと  
まのふしけいりて  
なり





ちのころ男あまけり風病によりて  
 いとみつねふや改まりまの歳をに  
 もころそけしきる人のあまいわ  
 けくやうしるそあまけり



こしたとつむてまこのねふちぬま  
 ちころやうならまのふたのてたて  
 けりことあまやまむたもくたのぬれ  
 ほとくにハう急まのこいつとんのしや飲  
 食城うけおねもくたのぬれは志ぬれ  
 まのみま

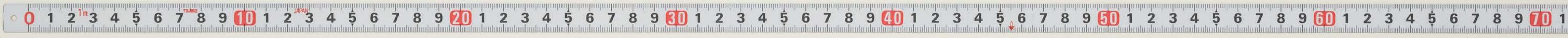




こしたつてまてこのねふちぬきま  
あさ乃やうならまのふたりのてわて  
川うことあまやまむたもくたなりぬれ  
はまにハう急まのこつてんのもん飲  
食城うけおたもくたなりぬれは志ぬれ  
そのみま



あま女のをふあはとふものあまそあま  
ゆふおれ成もあまさりあまハうらま  
世へ人の身にあるものちれも困所ハ  
くまーんちーのねなまハ川子ぬれ  
人しあまーあまをれなとあまあま  
かまあまーあまをれハあまハかまあま  
ま

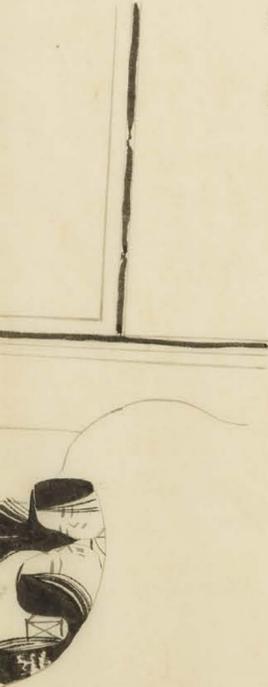




ある女のふあはとふものあをてあさ  
 ゆふあれ成ちあさりあさいふあまの  
 世て人の身にあるものちれも田所ハ  
 くまーんちーのあなをたけ子あれ  
 人しあーもあをれちとあまふこと  
 かあふてふあれいあまにたかたれ  
 了



山あろまかて木のしものあま  
 ーああふあさあさあまあま  
 いまむとこ大あまがしあまあま  
 ましねあまあまあまあま  
 きあまあまあまあまあま  
 まあまあまあまあま

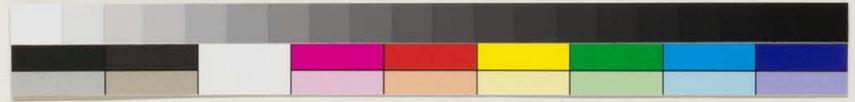




ちのく強ずすとのくくなるたくとん  
 のまこーんを魚くものあまけり成を  
 けきーころほくかまのあまいむ  
 とあひのきをりあれはあまものろといつ  
 我ハ目のやまひわ川をふらすしたるを  
 といソ急あろーきつるんき神仏のこま  
 けうとねをひてよめいれこのたここか  
 城ひきあろてよまそ針してあろ  
 るしそ針をうてついまはよくるの  
 ちもさつてつろい思ろのちひひとん  
 そはまけりけりけりけりけりけりけり  
 ちろけり



なるは良家子なるおと、あまを  
 するしそいられハ針の  
 ねろる人のいのなること成せし





たの良家子たのたど、あまを  
 ますしそしつまれハ折り  
 ぬかる人のつりなふこと成せも  
 去るてもなりきしものさす  
 こにみるかまけりれも病  
 ちるし



名おに女あまえんあつちのえん者  
 登あまかかりたれ人由うに  
 こいふよりよそにえおたこあまあ  
 川くたれさいきあのあまありて  
 てちうはまのぬれさけをうあま





子未に女あをん免つちの免者  
 をあまかしかり免れ人由うに  
 ういふよりよそにえおたこあま  
 川うたれさといきみのあまり  
 てちうはきよあぬれさぬき  
 くにきよとくうらぬさるも  
 わによる人くはくをさるも  
 子



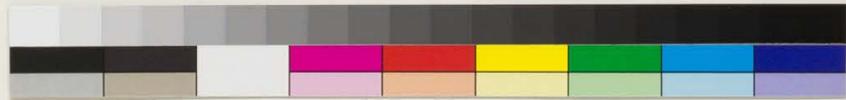
志あここのふしのあまを  
 のんしまほしんを志あく免  
 ちあるこもなむのよあま  
 ろあてまむあててふことあま



おせいのとて龍のわらわのたるやう  
 ならふのあまをひたしにまゝにまてよ  
 ちとてかゝるてかゝるてかゝるて  
 ちとてあまをひたしにまゝにまてよ  
 わらわのあまをひたしにまゝにまてよ



ちとてあまをひたしにまゝにまてよ  
 ちとてあまをひたしにまゝにまてよ  
 ちとてあまをひたしにまゝにまてよ  
 ちとてあまをひたしにまゝにまてよ





おせしめて龍のわしかまのたるやう  
 なりよのあまをひたにましをよめ  
 ときくふきりくしれそかしりてそ  
 名こそあまをそそ食をそそ人  
 わしひあまつる



田記  
 廢疾

画一卷大館高門家藏也

其所圖不成人十六種予廿五世祖

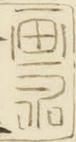
刑部大輔吉光真蹟詞傳曰卜部

兼好所寫也而今分其中一葉

見贈予々即摸其圖及其逸者



廢疾



畫一卷大館高門家藏也  
其所圖不成人十六種予廿五世祖  
刑部大輔吉光真蹟詞傳曰卜部  
兼好所寫也而今分其中一葉  
見贈予々即摸其圖及其逸者  
一葉贈之聊謝之其畫雖出一時戲  
實可謂希世之品寬政丙辰季冬  
初五日觀之

畫所禎從四位下土佐守藤原光貞審定

